

意識の高さ

2025.7.2

伸びる人がいる。その一方で、なかなか伸びない人がいる。いったい何が違うのか。この問いに對しては、いろいろな考えがあるだろう。一つの答えとしては、意識の問題がある。意識が高ければ、知識や技術を習得するだろう。品格のある生活を送ることだろう。

よく意識が高いとか意識が低いなどという。いとも簡単に意識という言葉を使っている。そこには、本人の心がけ次第で意識を高めることができるだろうという大前提があるようだ。ところが、人の意識というものは、そう簡単には変わらないようだ。

意識だけは教えることができないんです。これだけは人が変えてあげることはできないと思います。

ある方が、このようなことを言っている。そうだったのか。道理でと合点がいった。だが、これでは八方ふさがりである。手の打ちようがない。日頃から、人の心に火をつけたい。そして、意識を変えてもらいたいと思っている私としては、これでは困る。

今まで、心に火がついた人を見てきた。そういう出会いがあった。もしかしたら、その方たちは、最初から意識が高かったのかもしれない。そこに、たまたま刺激を与えることになっただけなのかもしれない。それを心に火がついたと思い込んでいただけなのか。

意識改革という言葉がある。意識とは、他力本願、受動的、受け身的なものではなく、自力、自動的、能動的なものなのだろう。自分の内なるもの、奥深く眠っていたものが表に出てきたものなのかもしれない。

そうであるならば、自らの意志で呼び覚ます必要がある。人が、どうこうできるものではない。そうは思っていても、どうにもこうにも、それでは寂しすぎる。何かしらのきっかけぐらいはプレゼントすることはできないだろうか。そう思ってしまう。

人は、そうそう自分の思うように行動することができない。何かに頼りたくなる。すがりたくなる。「意識が低い」と言われても、そう簡単には自分を変えることはできないだろう。意識そのものを教えることはむずかしいかもしれない。だが、意識に気がつくきっかけを与えることはできるような気がする。困難さはわかっている。だが、あきらめたくはない。